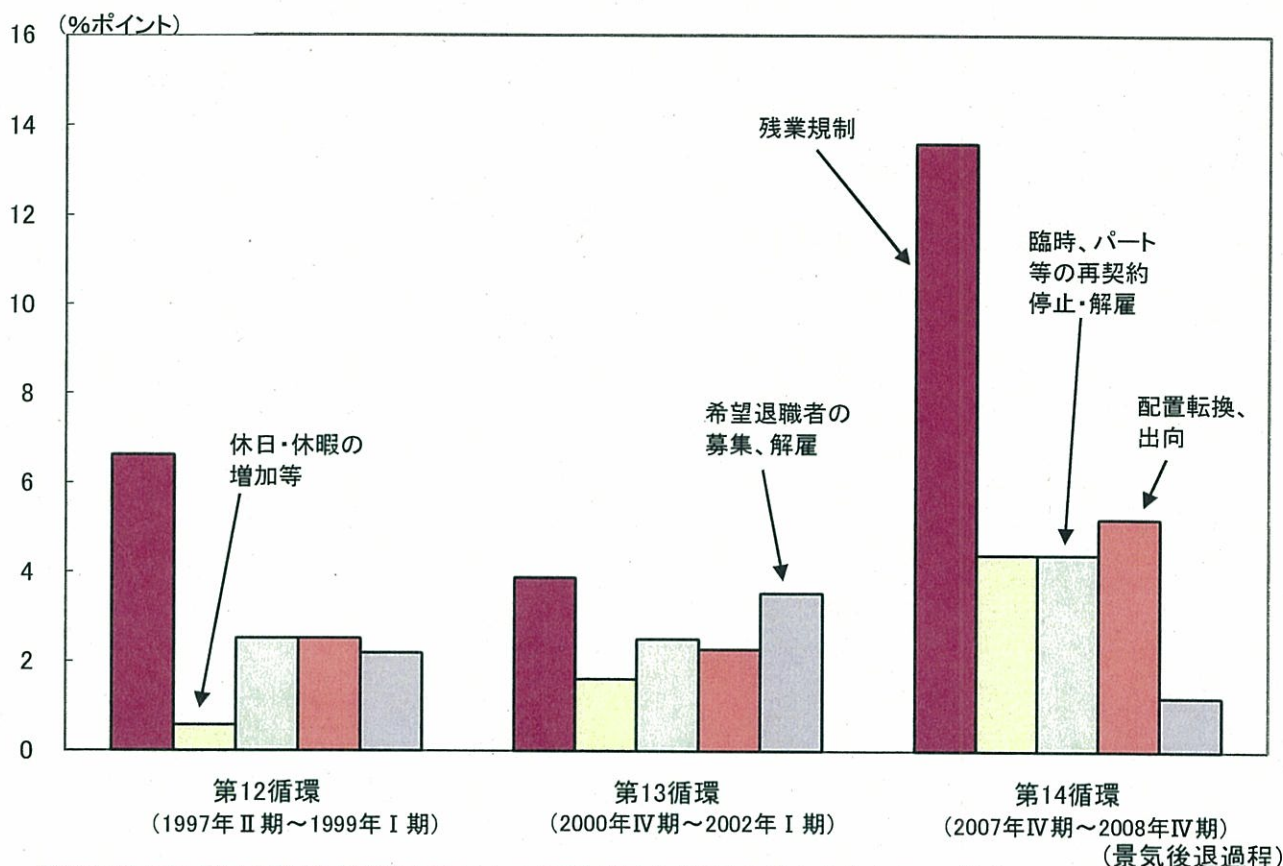


## 雇用調整実施方法の上昇ポイント



資料出所 厚生労働省「労働経済動向調査」により厚生労働省労働政策担当参事官室にて推計

(注) 標記の景気循環の景気後退過程それぞれにおいて、各雇用調整実施方法の上昇ポイント(年率換算)をタイムトレンド関数を用いて推計したもの。

### (非正規労働者の雇用調整の増加)

- 雇用調整の実施方法について景気後退過程ごとにその上昇ポイント(年率換算)をタイムトレンド関数を用いて推計すると、第14循環においては、残業規制の上昇ポイントが特に大きく、休日・休暇の増加や配置転換、出向が相対的に大きい。
- 一方、今まで景気後退過程における上昇ポイントが大きくなかった臨時、パート等の再契約停止・解雇が大きく増加している。これに対し、希望退職者の募集・解雇の上昇ポイントは相対的に小さい。
- このように雇用の削減を伴う雇用調整は、残業規制や配置転換、出向などにより正規労働者で抑制されているものの、非正規労働者においては集中的に表れており、非正規労働者も含めた雇用維持の取組が期待される。